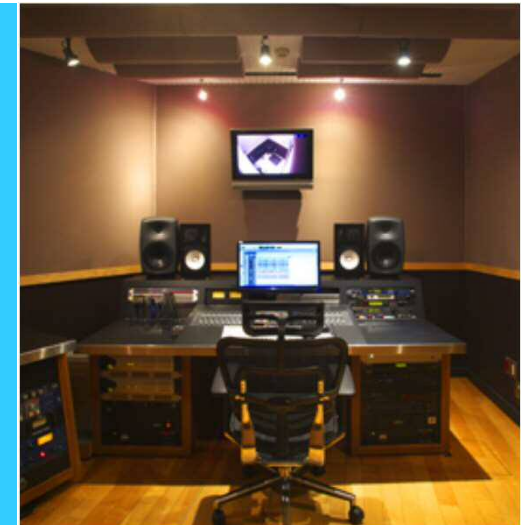




Support The Hospitality

表舞台を輝かせる真のおもてなしを極めて



2020年9月期決算説明資料

2020年12月

株式会社CSSホールディングス

東証 JASDAQ

証券コード 2304

<https://www.css-holdings.jp/>

2020年9月期決算

【会社名】	株式会社CSSホールディングス
【本社所在地】	東京都中央区日本橋小伝馬町10番 1 号
【設立】	1984年（昭和59年）12月
【資本金】	393百万円
【発行済株式総数】	5,285,600株
【決算期】	9月
【代表者】	代表取締役社長 林田 喜一郎
【連結従業員数】	5,612名（うち、パート・アルバイト 5,083名） （2020年9月30日現在）

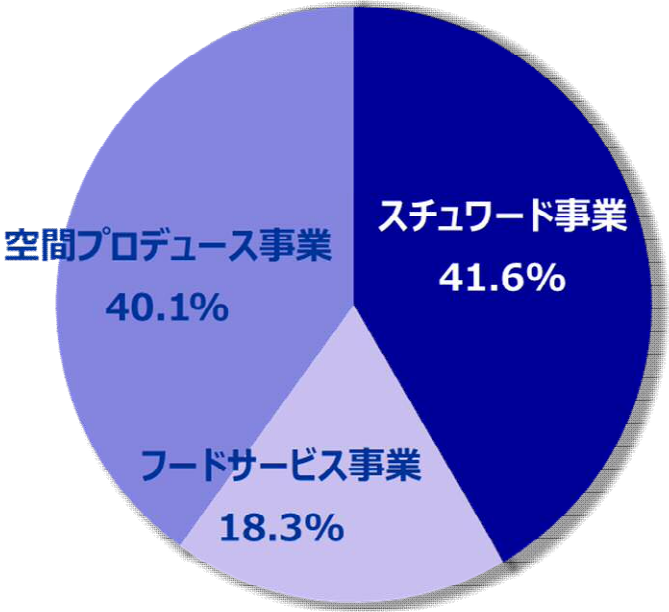
連結業績(P/L)

(単位：百万円)	2019年9月期	2020年9月期	差異
売上高	18,445	11,962	▲ 6,483
営業利益	455	▲ 1,072	▲ 1,527
経常利益	445	258	▲ 186
親会社に帰属する当期純利益	▲ 110	23	133
1株あたり当期純利益(円)	▲ 21.81	4.65	26.46

※前年実績にはヤマト食品株式会社を含んでおります。

(単位：百万円)	2020年9月期		差 異
	計画値	当 期	
売上高	16,180	11,962	▲ 4,218
営業利益	306	▲ 1,072	▲ 1,378
経常利益	311	258	▲ 52
親会社に帰属する当期純利益	186	23	▲ 163
1株あたり当期純利益(円)	37.03	4.65	▲ 32.38

【セグメント別売上構成比】



Point

- 新型コロナウイルス感染症の拡大により、グループ全体として大きく売上高を落とすこととなった。
- 本業の実力を示す営業利益についても大きく損失計上。
- 経常利益については雇用調整助成金が給付され、黒字を維持。

連結業績(B/S)

(単位：百万円)	前期末 2019年9月末日現在	当期末 2020年9月末日現在	差 異
資産合計	5,855	5,604	▲ 250
流動資産	3,269	3,219	▲ 50
固定資産	2,585	2,385	▲ 199
負債合計	3,215	3,031	▲ 184
流動負債	2,692	2,017	▲ 675
固定負債	523	1,014	491
純資産合計	2,639	2,573	▲ 65
株主資本	2,535	2,510	▲ 25
評価・換算差額等	103	63	▲ 40
負債・純資産合計	5,855	5,604	▲ 250
自己資本比率	45.1%	45.9%	0.8P



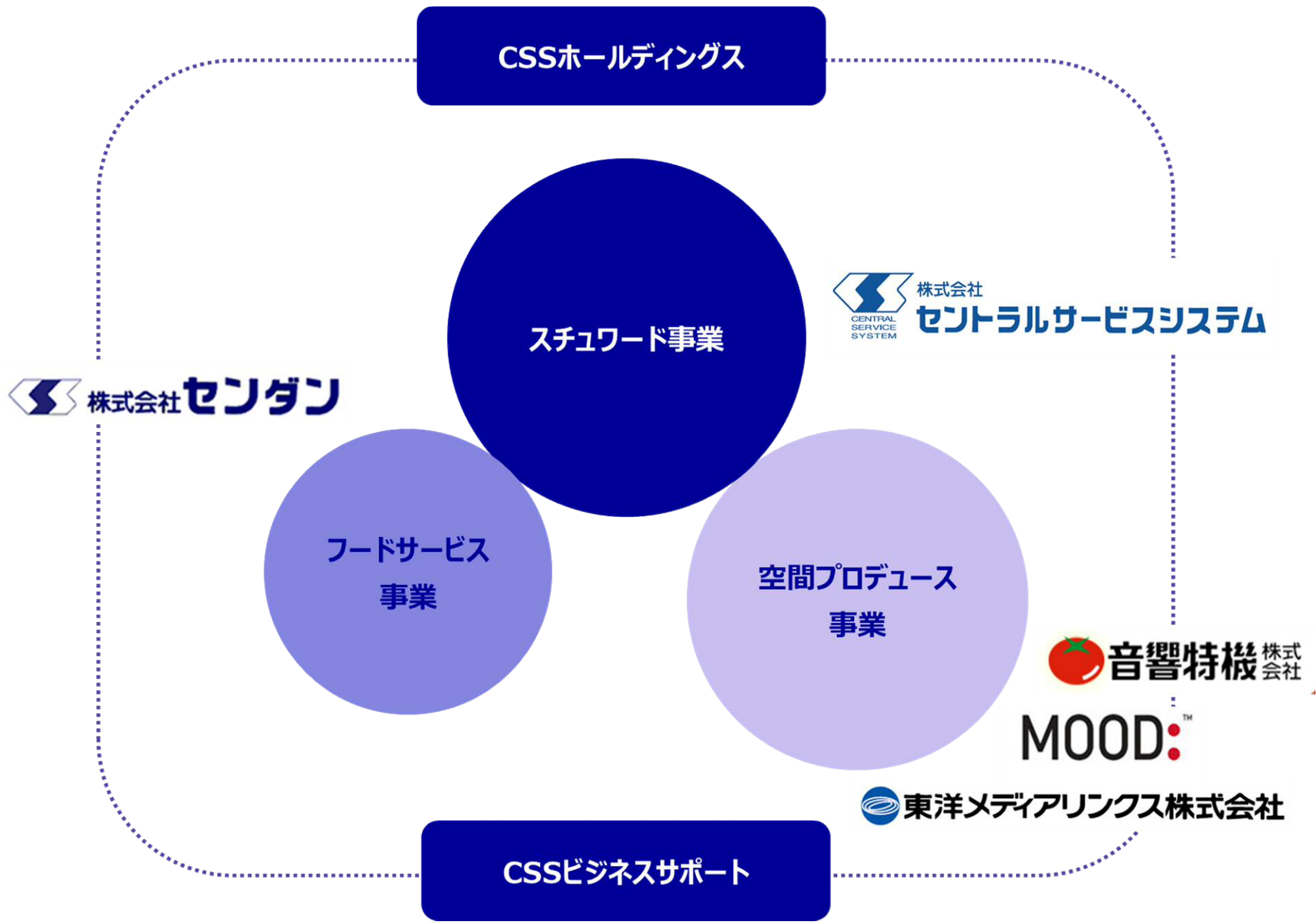
Point

- 資産については投資有価証券の評価見直しにより減少
- 負債については、短期借入金の減少により減少
- 純資産については配当金の支払い、株式評価差額等により減少



(単位：百万円)	2019年9月期 累計期間	2020年9月期 累計期間	差 異
営業キャッシュフロー	427	345	▲ 81
投資キャッシュフロー	▲ 74	▲ 71	2
財務キャッシュフロー	▲ 616	67	683
現金及び現金同等物の増減額	▲ 263	341	604
現金及び現金同等物の期首残高	1,070	807	—
現金及び現金同等物の期末残高	807	1,149	341

※前年実績にはヤマト食品株式会社を含んでおります。



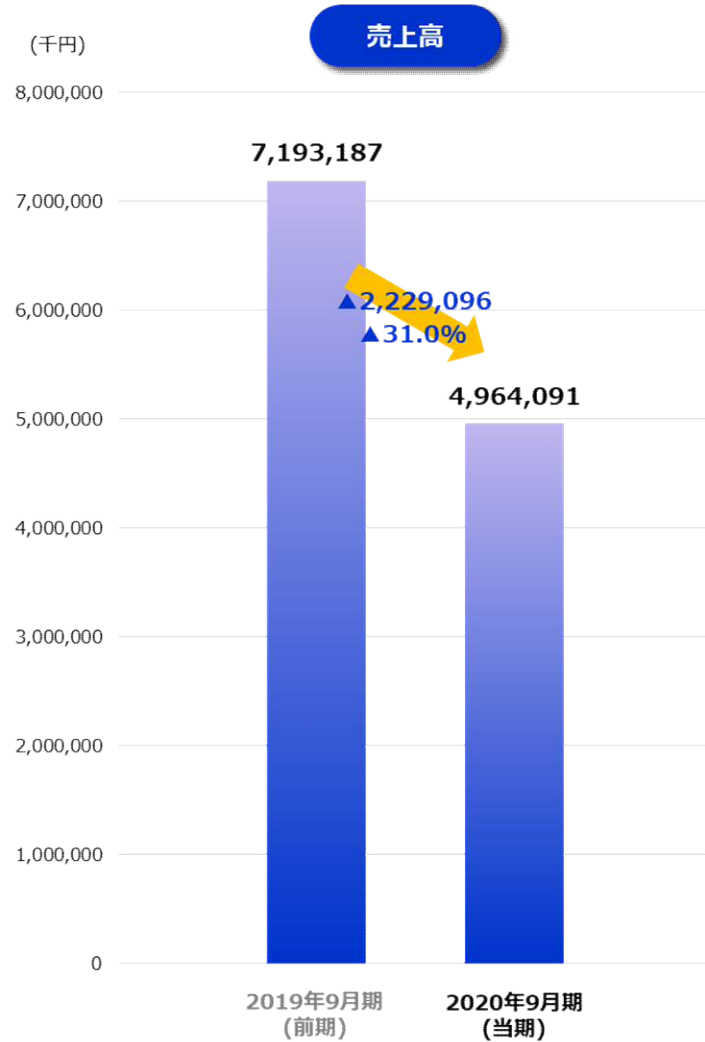
【売上高】

(単位：千円)	2019年9月期	2020年9月期	増減額	増減率
スチュワード事業	7,193,187	4,964,091	▲ 2,229,096	▲31.0%
フードサービス事業	5,079,229	2,184,500	▲ 2,894,729	▲57.0%
空間プロデュース事業	6,142,708	4,778,000	▲ 1,364,708	▲22.2%

【セグメント利益】

(単位：千円)	2019年9月期	2020年9月期	増減額	増減率
スチュワード事業	284,282	▲ 1,001,639	▲ 1,285,922	—
フードサービス事業	▲ 24,591	▲ 130,580	▲ 105,989	—
空間プロデュース事業	252,818	50,471	▲ 202,346	▲80.0%

※前年実績にはヤマト食品株式会社を含んでおります。



Point

- 上半期は好調に推移したが、コロナ禍により年間の売上高は大きく落ち込んだ。
- パート・アルバイトについては、賃金補償をした上で休業を指示。したがって、下半期の人件費負担により大きな営業損失の計上となった。

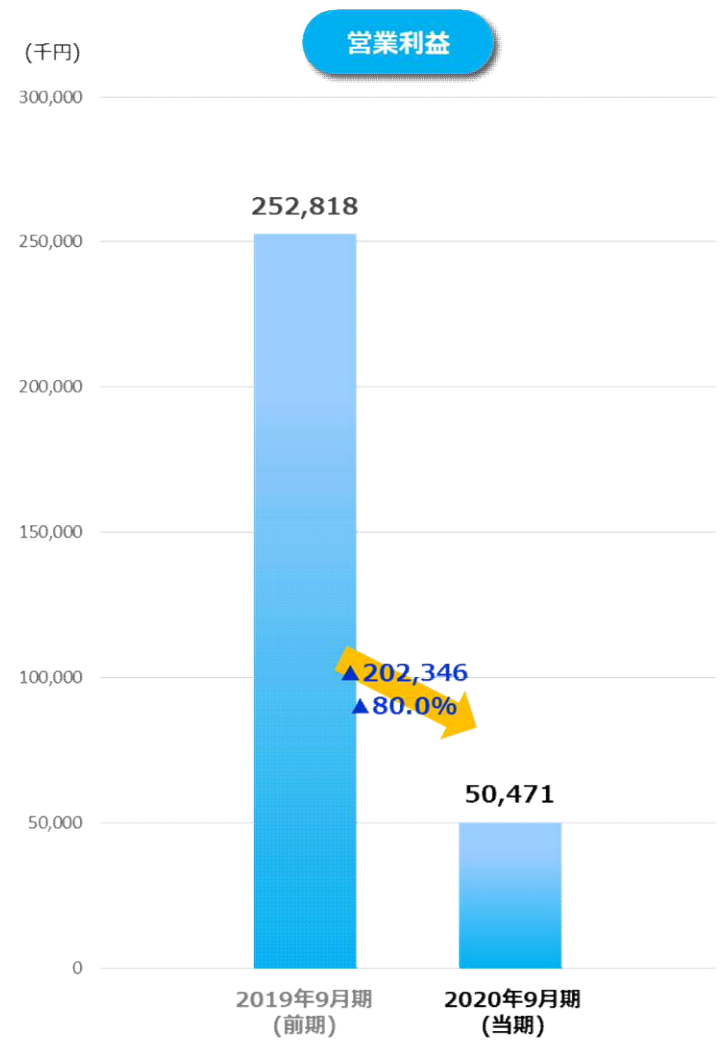
フードサービス事業



Point

- 上半期は新規受注5件でスタートしたが、コロナ禍により年間の売上高は大きく落ち込んだ。
- パート・アルバイトについては、賃金補償をした上で休業を指示。したがって、下半期の人件費負担により大きな営業損失の計上となった。

※前年実績にはヤマト食品株式会社を含んでおります。



- Point**
- コロナ禍によるメガバンクの投資の先送り、大型投資の見合わせにより売上高が減少、また、景気後退により、大型件名減少、前年実績を割り込んだ。
 - 音響機器販売は、4月以降展示会の中止、商品セミナーや対面セールスが制限され、売上高は減少。海外製品も納品の遅れ等でセールス機会の損失が発生
 - 費用面においては、人件費の削減、固定費の圧縮等を行い利益の確保

2021年9月期 With / Afterコロナにおける取組み

直近のピークである2019年7月～9月期のGDP539.3兆円を回復するのは22年以降と見込まれる



【2020年8月18日付日経新聞より】

回復には時間がかかる

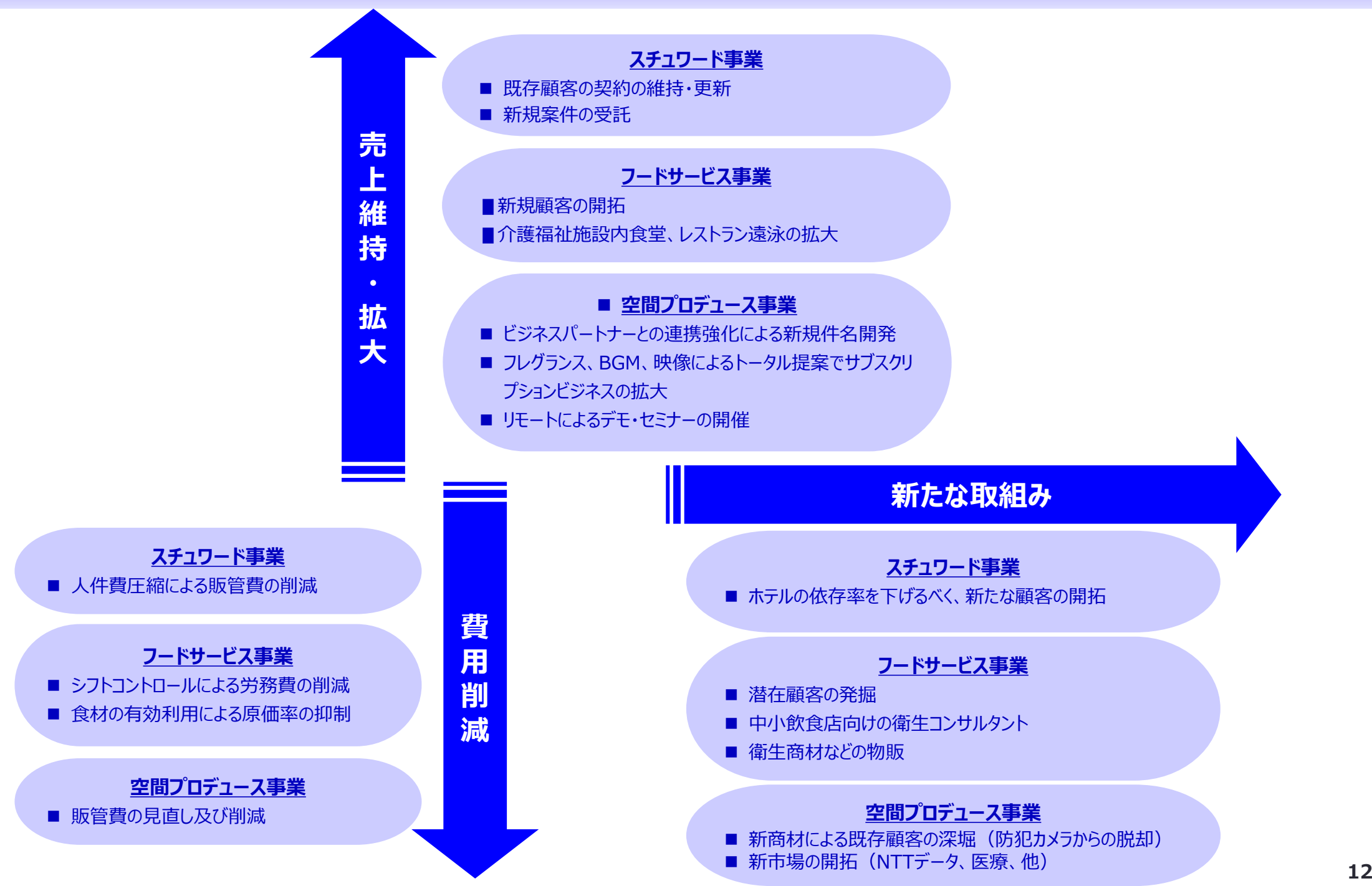


(注) 20年7～9月期以降は民間予測の平均

- 2020年4月期～6月期のGDP成長率は年率換算で前期比▲27.8%、戦後最大の落ち込み。
- 2020年7月期～9月期のGDPは、前期比年率13.3%増、経済活動の再開を受けての反動増。
- 10月以降は、特別定額給付金の効果が息切れ、リバウンドの動きは次第に一巡する。
- 10月～12月期は4.7%、1月から3月期は3.3%とさらに鈍化が予想されている。
- 2020年4月期～6月期の実質GDPは485.1兆円(年率換算)、12年前の水準まで逆戻りしている。

【民間調査機関のGDP回復時期の見通し】(2020年8月19日付読売新聞より)

明治安田生命総合研究所	24年4月～6月期	備考
第一生命経済研究所	24年度頃	
大和総研	23年～24年頃	
みずほ証券	23年度以降	
SMBC日興証券	23年	
ニッセイ基礎研究所	22年度以降	
三菱UFJリサーチ&コンサルティング	22年度	
日本総合研究所	22年以降	



本資料についてのご注意

本資料は参考資料であり、正確な決算数値等は当社決算短信および有価証券報告書をご参照願います。また、本資料に記載の業績に関する見通しや計画等には、不確定要因を含んでおります。実際の業績などは、当社の事業を取り巻く経済情勢等の様々な要素により異なる可能性があることをご承知おき願います。

IRに関するお問い合わせ

株式会社CSSホールディングス グループ経営管理室

TEL 03-6661-7840

FAX 03-6661-7841

E-mail hld-info@css-ltd.co.jp